

平成30(2018)年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名

白馬村

(都道府県:長野県)

1. 当該地域の情報 (2019年2月現在)

地域の課題	外国人の定住者・観光客の増加に伴い、冬季の外国人住民割合は約11%を占め年々増加傾向にあり、通年で暮らす定住者も300人(3%)程度存在している。地域コミュニティへの参加や、学校・行政とのコミュニケーション、災害時の対応などが課題となっており、外国人住民からも「自分たちが日本語を勉強すれば多くの課題が解決できる」との意見が出ているが、日本語を学ぶ機会が極端に少ない状況である。
在住外国人数 外国人比率	冬季:1,000人(11%) 夏季:300人(3%)
在留外国人の 状況	【主な国籍と人数】 オーストラリア(300)、英国(100)、台湾(70)、カナダ(50)、ニュージーランド(50)、韓国(50)、中国(40)、フィリピン(30)、米国(20)、フランス(20) 【在留資格】特定活動(400)、技能(60)、技術・人文知識・国際業務(60)、日本人の配偶者等(60)、永住者(60)、経営・管理(40)、家族滞在(20)、特別永住者(20)、企業内転勤、教育 【滞在年数・在留期間などの状況】 冬季は観光業のスタッフとして働く特定活動(ワーキングホリデー)で3ヵ月程度の短期滞在する外国人が多く、夏は技術・人文知識・国際業務や日本人の配偶者が多い傾向にある。短期滞在者も通年で定住する者も増加傾向にある。
在住外国人の 日本語教育の現状	数名のボランティアが日本語教室を開催しているが、周知されていないうえに体制が不安定で継続が危い状況である。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	1年目			
事業の目的	村の基本理念を「白馬の豊かさとは何か～多様であることから交流し学びあい成長する村」としており、多様な年代・背景を持った人々が交流し学びあう場づくりを村として推進している。 海外からの観光客が多く訪れ、在住する外国人も多く存在する人口約9,000人の国際的観光地である白馬村において、どのような形で日本語教室が開催されることが望ましいのか検討し、住民を巻き込みながら講師・スタッフの確保に努め、安定的な日本語教室の運営を目指す。			
事業の概要	・白馬村の人口や産業、外国人の動向、すでに村内で活動を行うボランティアによる日本語教室の現状と課題、他の地域における日本語教室の先行事例等を関係者やアドバイザーに共有した。 ・外国人住民を対象にアンケートを実施し、村内既存の日本語教室や新たな日本語教室の開講も視野に入れて多文化共生に関するニーズを探った。 ・現状の日本語教室を視察し、教材や運営等について意見交換を行うとともに、課題と対策を検討した。 ・村として目指すべき姿も踏まえたうえで、村内既存日本語教室の強化や日本語教育の実施体制について、次年度以降の方針について議論した。			
事業の対象期間	2018年7月～2019年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)				
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	西浦 知子			事例調査、ニーズ調査
	陸 詩顕	白馬村役場 総務課	臨時職員	事例調査、ニーズ調査
	山下 由美子			事例調査、ニーズ調査
	渡邊 宏太	白馬村役場 総務課	主査	会議運営、ニーズ調査
	佐藤 一石	白馬村役場 総務課	集落支援員	会議運営、ニーズ調査
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	山田 泉	にんじんランゲージスクール	校長	継続・新規(1年目)
	萬浪 絵理	公益財団法人千葉市国際交流協会	日本語教育コーディネーター	継続・新規(1年目)
	春原 直美	公益財団法人長野県国際化協会	相談役	継続・新規(1年目)

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制


```

graph TD
    WRC[白馬村役場総務課] --- WC[白馬村教育委員会]
    WRC --- WFW[白馬村社会福祉協議会]
    WRC --- LCI[長野県国際化協会]
    WRC --- LCC[長野県県民文化部国際課]
    WRC --- C[コーディネーター]
    WRC --- A[アドバイザー]

```

白馬村役場総務課を事務局として、検討会議を組織し、外国人住民のニーズを把握したうえで、外部有識者であるアドバイザー助言のもと、長野県県民文化部国際課、長野県国際化協会の意見も聞きながら、今後の教室運営主体となり得る、白馬村教育委員会（生涯学習スポーツ課・公民館）、白馬村社会福祉協議会、コーディネーター等と共に、目指すべき日本語教室のあり方につ

所属(担当課)	担当者名	職名
長野県県民文化部国際課	早川 真由美	主事
公益財団法人長野県国際化協会	春原 直美	多文化共生ネットワーク推進コーディネーター
白馬村教育委員会	横川 秀明	公民館長
白馬村社会福祉協議会	中西 彩香	ボランティアコーディネーター
白馬村役場 総務課	田中 洋介	企画調整係長
白馬村役場 総務課	渡邊 宏太	主査

[illegible]

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2018年 4月			
2018年 5月			
2018年 6月			
2018年 7月			
2018年 8月	検討会議開催に向けた事前打合せの実施(キックオフミーティングに提示する日本語教室あり方の検討) 第1回検討会議(キックオフミーティング)開催 (村の概況説明、村内視察(集住地域等)、関係団体の活動説明、今後の進め方検討)	会議資料作成、会議準備、会議録作成等	★検討会議への出席
2018年 9月	文化庁日本語教育大会参加 ニーズ調査(アンケート・ヒアリング)実施 県内日本語教室視察(村、コーディネーター、社協等)	アンケート作成、印刷、発送、回収、ヒアリング	
2018年 10月	アンケート・ヒアリング集計 白馬村秋季火災予防訓練・外国籍県民のための防災訓練参加(主催:長野県及び白馬村)	アンケート集計 防災訓練参加	
2018年 11月	日本語教室視察、ボランティアとの意見交換 第2回検討会議開催 (アンケート調査結果報告、日本語教室の運営と教材に関する課題と対策、今後の進め方)	日本語教室視察 ボランティアとの意見交換 会議資料作成、会議準備、会議録作成等	★日本語教室視察 ボランティアとの意見交換 検討会議への出席
2018年 12月			
2019年 1月		アンケート結果(公表用)の英訳	
2019年 2月	第3回検討会議 (次年度以降の方向性検討)	教材作成(試行) 会議資料作成、会議準備、会議録作成等	★検討会議への出席
2019年 3月			

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		今年度は村内の既存日本語教室の強化や新規日本語教室の立ち上げも視野に入れた、日本語教育体制の検討に注力したため、今年度本事業としては日本語教室の実施をしなかった。					
外国人参加者について					参加者数 (内 外国人数)		
開催時間数							
目標							
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
外国籍県民のための防災訓練	2018年10月	村が開催する秋季火災予防訓練に併せて、県と共に災害多言語支援センター設置運営訓練及び避難所体験訓練など、外国人住民のための防災訓練を実施し、学習者やコーディネーターが参加した。
ボランティア研修	2018年11月	日本語教室にボランティアとして参加している日本人に対して、他の地域の事例も交えて教材や対話の際に留意することなど、研修を実施した。

【主な活動】



災害多言語支援センター設置運営訓練



避難所体験訓練

5. 今年度事業全体について

進捗状況	教材の作成については完成に至らなかったが、それ以外は概ね予定どおりに進めることができた。
成果	アンケート調査により、外国人住民の学習ニーズを知ることができた。 教材や運営体制について、他の地域の先行事例も含めて広く知ることができた。 今後の目指すべき方向性と、解決すべき課題が明らかになった。
地域の関係者との連携による効果	現状の日本語教室の認知が高まるとともに、今後のあり方について共通認識を有することができた。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(27H) ②体制整備のための調整(24H) ③人材育成のための調整(6H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(5H) ⑤教材作成に向けた調整(12H) ⑥その他(9.5H) (具体的な内容:研修)
アドバイザーの主な助言	日本語教室が外国人住民の安心・安全の場所であってほしい。 日本語教室で有益な情報が収集できるなど、コミュニティのきっかけとなってほしい。 生活者のために必要とされる日本語を学ぶ場としてほしい。 長期的に定住する人と、短期的に滞在する人を分けて考えて教室を運営した方が良い。 教材については既にあるものを組み合わせるなどして、地域独自のものを揃えたうえでボランティアが共通認識を持つことが望ましい。
今後の課題	地域に住む外国人に求められている教材を作成するとともに、ボランティアが取扱いやすいよう仕組み化を図る。 現状のボランティアの教室だけでは、しっかり学びたいという学習者のニーズに対応できていないため、短期集中プログラムや回数を増やす・時間を長くするなどしっかり学べる有料プログラムも検討する。 教材作成を進める人材、教室を運営する人材、ボランティアの安定的な確保も課題である。
今後の予定	村の基本理念である「多様であることから交流し学びあい成長する村」の実現に向けて、多文化共生を推進するような組織の設立を検討するとともに、ボランティアによる日本語教室を継続的に支援しながら、外国人の多様な学習ニーズに応えられるよう、有償化も含めて新たな教室のあり方も検討する。さらに、日本語教室をきっかけとして、交流イベント等を開催することで、多様な住民が多文化に触れる機会を創出する。

本件担当 : 白馬村役場 総務課 企画調整係